TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

王が来られたⅠ

みなさんの王が来られています　マタイによる福音書 21:1-11

2022年5月7日&8日
余沢　武牧師

I. イントロダクション

こんにちは。TBC メンバーのみなさんには、予算など承認が必要な情報が届いていることと思います。皆さんの承認が必要な正式な投票日は 5 月 28 日、29 日の週末となります。

しかし、もしその週末に礼拝に来られないかもしれない場合、あるいはオンラインで礼拝している場合は、オンライン投票を使って、又は、期日前投票によって早めに投票することをお勧めします。-



それから、「母の日、おめでとうございます！」本日は全てのお母さんに敬意を表したいと思います。お母さんのみなさま、お立ちください。すべてのお母さんのために祈りましょう。

お祈りします。

今日から、**マタイによる福音書 21 章から 22 章**までの新しいメッセージシリーズ、「王が来られた Ⅰ」が始まります。今日がキックオフですが、この先の 2 週間は、Jesse 先生と Joel 先生が別のテーマで説教してくださいます。そして、5 月 28 日&29 日の週末に再開する予定です。

このシリーズは、前回見てきたマタイのシリーズの続編にあたります。私たちは以下のことを学んできました。

イエスは「神の国」を建てるために来られた王、メシアです。私たちが「御国」へ入る方法、それは「心の貧しい者」になることによってです。奇蹟によるイエスの「権威」と「力」。たとえ話を通して「御国」の奥義。「御国」は、謙遜の王国です。イエスはご自分の死と復活を予言されました。そして変容の時、栄光を現されました。

II. みなさんの王がみなさんのところに来られています

(1) 子ろばを連れたろば

さて、彼らはエルサレムに到着しました。**マタイ 21 章 1 節から 5 節**です。**「一行がエルサレムに近づいて、オリーブ山に面したベトファゲに来たとき、イエスは二人の弟子を使いに出そうとして、言われた。「向こうの村へ行きなさい。するとすぐ、ろばがつないであり、一緒に子ろばのいるのが見つかる。それをほどいて、私のところに引いて来なさい。もし、誰かが何か言ったら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。すぐ渡してくれる。」それは、預言者を通して言われたことが実現するためであった。「シオンの娘に告げよ。『見よ、あなたの王があなたのところに来る。へりくだって、ろばに乗り荷を負うろばの子、子ろばに乗って。』」**

イエスは過越の祭りを前にエルサレムに入ろうとしていました。このとき、エルサレムには約 15 万人の人々が訪れていたでしょう。それまで、イエスは何でも隠れてやろうとされていました。しかし、今、イエスは ろばに乗ることを決めました。

イエスは、二人の弟子にろばと子ろばを探すように指示されました。まるで、王が入城してきたかのように見せようとなさいました。人々の視線を集めるためです。

しかし、この入城には不思議なところがありました。イエスの時代、軍事的に大勝利を収めると、皇帝は凱旋行列を組んでローマに入城したものです。
行列の先頭は鎖につながれた捕虜たち、略奪した金や銀の財宝。そして、元老院議員や行政長官らが徒歩で後に続く。そして、行列のハイライト。皇帝は 4 頭の馬に引かれた背の高い馬車に乗ってやって来る。そして、皇帝の子どもたちや将校が馬に乗ってついてくる。その後、軍隊が続く。行列全体が 2～3 日続くこともあった。

イエスは行列にただ子ろばを使おうとなさいました。ローマ皇帝が小さなろばで凱旋行列をするなんて、絶対におかしいことです。

ある評論家は、皇帝の行列を現代の大統領の車列に例えるなら、子ろばは大統領が三輪車に乗るようなものだ、と言っています。なぜ、そんなことをするのでしょうか。

理由がありました。イエスの時代より500年前に、ゼカリヤという預言者が、神に選ばれた王であるメシアが子ろばに乗ってエルサレムにやってくると預言していました。ですから、イエスがこのようにエルサレムに入られたのは、こう宣言なさっていたのです。

「私は500年前に預言者が書いた王である。私が救世主である。」

しかし、それだけではなく、皇帝がその軍事力で敵を征服し治めることを戦車が象徴しているように、ロバはイエスが「謙遜」と「優しさ」で敵に服従することによって敵を征服し治めるだろうことを象徴しています。

このようにして、主はご自分の王国を築かれるのです。こうして主はご自分の王国を支配されるのです。

(2) 神によるオーケストラ

しかし、ここで明らかに作用していることがあることにも注目してください。

2節で、イエスは「するとすぐ、ろばがつないであり、一緒に子ろばのいるのが見つかる」とおっしゃっています。

3節では「もし、誰かが何か言ったら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。すぐ渡してくれる。」とおっしゃっています。

6節と7節は「[6] 弟子たちは行って、イエスが命じられたとおりにし、[7] ろばと子ろばを引いて来て、その上に上着を掛けると、イエスはそれにお乗りになった。」と言っています。

並行する**マルコによる福音書11節4節から6節**はさらに詳しく情景を描いています。

「二人は、出かけて行くと、表通りの戸口に子ろばがつないであるのを見つけたので、それをほどいた。すると、そこに居合わせた人々が、「その子ろばをほどいてどうするのか」と言った。二人が、イエスの言われたとおり話すと、許してくれた。」と言っています。

この物語を読むと、これらすべてを調和して編成している大きな力に必ず気付かされます。

予言から500年も経ってから、子ろばがそこにつながれている可能性があるのでしょうか。

そして、なぜ村人は、「主が必要としておられるから」という理由で、見知らぬ二人に自分のろばを連れて行かせたのでしょうか。

私は、神ご自身がこのようなことをされていたのではないかと思わずにはいられません。もしかしたら、神は変容の時にイエスに指示を与えていたのかもしれません。神はイエスとろばの飼い主にビジョンを与えていたのでしょう。

しかし、たとえイエスが密かにこのことを手配したにせよ、私たちは、神がこのすべてを調和をもって計画していると見ざるを得ないのです。ここに大切なポイントがあります。神が全てをオーケストラをまとめるように調和させてきたのです。イエスの誕生以来すべてが前進し、預言が成就してきました。キリストにあって「神の子」と呼ばれる神の性質を持つ新しい民が確立されました。

これこそ、私たちが「イエスの生き方」に見るものです。そして、これはすべてのクリスチャンの生き方にも見られるものです。

その理由を**ローマの信徒への手紙8章28節から30節**に見ることが出来ます。**「神を愛する者たち、つまり、ご計画に従って召された者のためには、万事が共に働いて益となるということを、私たちは知っています。神は前もって知っておられた者たちを、御子のかたちに似たものにしようとあらかじめ定められました。それは、御子が多くのきょうだいの中で長子となられるためです。神はあらかじめ定めた者たちを召し出し、召し出した者たちを義とし、義とした者に栄光をお与えになったのです。」**

聖書によれば、もし私たちが神を愛しているなら、もし私たちがクリスチャンなら、すべてのことは私たちの益のために共に働くでしょう。つまり、私たちをイエ

スの似姿に、つまり謙虚で優しい者に変えるために働くという意味です。「すべてのこと」とは何でしょうか。家庭や職場や学校や教会でで起こるすべてということです。

この２年間は、新型コロナ（Covid-19）がありました。私は、教会をどのように運営していったらよいのかをコントロールするむずかしさを学びました。まさか礼拝をストリーミング配信するとは思ってもみませんでした。もし、誰かが提案しても、私はそれを受け流すだけだったでしょう。

でも、今はそれが普通になっています。ズームミーティングも同じです。私は、神の教会を形作ることはできないと悟りました。神がご自分の教会を形づくる方であり、私たちを形づくるために教会をお使いになるのです。そうすれば、私たちは謙遜さと優しさをもって対応し、その結果を主に信頼することを学ぶことができます。

主は、すべてのことを、「神を愛する者のために共に働いて益となるよう」整えておられるのです。これが、イエスが敵を征服した方法です。これが、イエスがご自分の王国を支配される方法です。そして、これが神の国にいる人々の特徴なのです。

要するに、聖書に基づくカウンセリングとは、このように人を助けることなのです。結婚、子育て、人間関係、怒りの問題など、相手がどんな問題に直面していようとも、です。

神が私たちに問題を与えたのは、私たちが問題を解決するためではないことを気付かされます。神を愛する者のために万事が共に働いて益となるのです。私たちをイエスの似姿に変え、「謙遜」と「優しさ」をもって対応することを学ばせるためなのです。

そして、彼らが謙虚で優しくなるために祈りをもって神に従うことに集中し、結果を神に信頼するとき、彼らのうちにイエスのご性質が実を結び、神の誠実さを証しし始めるのです。

繰り返しになりますが、このようにして、イエスは敵を征服されました。これが、イエスがご自分の王国を支配された方法です。そして、これが神の国にいる神の民の特徴なのです。そして、神は私たちを神の民とするために、すべてをオーケストラのように整えておられるのです。

（3） ホサナ

8節から11節です。「大勢の群衆が自分の上着を道に敷き、また、ほかの人々は木の枝を切って道に敷いた。群衆は、前を行く者も後に従う者も叫んだ。「ダビデの子にホサナ。主の名によって来られる方に祝福があるように。いと高き所にホサナ。」イエスがエルサレムに入られると、都中の人が、「一体、これはどういう人だ」と言って騒いだ。群衆は、『この方は、ガリラヤのナザレから出た預言者イエスだ』と言った。」

群衆は、イエスが神の民を救うために来られたメシアであることを認識すると、こう叫びました。「ダビデの子にホサナ!」 「ホサナ」という言葉は、「今、私たちを救ってください」という意味です。イエス様が私たちを救うために来てくださった、その通りです。しかし、彼らは敵の正体を間違えていたのです。彼らはローマ帝国の圧政こそが敵で、そこから自分たちは救われるべきと考えていました。

しかし、イエスは、もっと大きな敵である「自分自身-自らの罪」。つまり、神を完全に信頼すること完全に拒み、「謙虚さ」と「優しさ」をもって神の言葉に従おうとしない彼ら自身から彼らを救うために来てくださったのです。

イエスは次の2つのことを教えました。

① 神を完全に信頼し、私たちの罪のために謙虚に、優しく十字架にかかってくだったイエスの御言葉に従うこと。
② そして今、謙遜と優しさというご性質と、ご自身を信頼する者に、そのご性質、謙遜と優しさを与えておられます。

メシアなる王は、私たちを救うために、謙遜と優しさをもって、来られました。彼は私たちの罪のために死なれました。それゆえに、私たちも神の子として、その人格とともに、御国に入ることができるのです。

みなさんは救われていますか。みなさんは、今、神を信頼し、「謙虚さ」と「優しさ」を持って生きていますか。

もしそうでないなら、今日、イエスをあなたのメシアとして、あなたの救い主として迎えるよう、お招きさせてください。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https:/t-b-c.us/sg1922jp



奉仕者募集中！

1．週末礼拝メッセージ翻訳者（数名募集）
1か月半に1度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語を日本語へ翻訳します。

2．日本語字幕オペレーター（4名募集）
月1回～各礼拝の時間（特に3時、5時の礼拝募集）の字幕のページをめくる奉仕です。英語を聞いて日本語がどの翻訳部分かわかる程度の英語力が必要です。操作は矢印キーを押すだけの簡単なものです。

連絡先（ひろみ）：
hiromik@tokyobaptist.org

★クラス401
（ミッションの発見）
5月15日（日）13:00～17:00

★クラス210
（スモールグループについて）
5月22日（日）13:00～17:00

https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ申込み
http://t-b-c.us/sgsu